

## 17 松河戸の自主活動団体

ムラの中には、自治会とは別に、昔から活動部隊としての組織がありました。青年団、消防団、婦人会など、自治会を補助する位置づけではありましたが、それぞれの役割分野において自主性を持ち、長い歴史のなかでムラに貢献してきました。

- (1) 青年団…………… p382
  - ① 近世～戦前の青年団、② 戦後の青年団
- (2) 消防団…………… p385
- (3) 婦人の会…………… p387
- (4) 子ども会…………… p389
- (5) その他…………… p392
  - ① 松河戸老人会、② 敬老会、③ 松河戸誌研究会
  - ④ ゲートボール道風クラブ、⑤ 神楽会



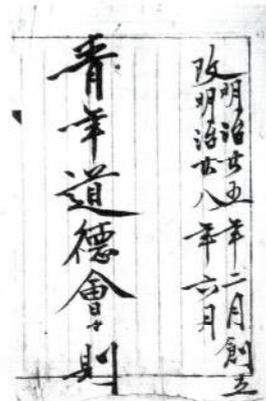
松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## (1) 青年団

### ① 近世～戦前の青年団

青年団のルーツは室町時代に村組織(村落)が起こったのと同様といわれます。

江戸時代には各村落ごとに若者組、若連中、若衆組などと呼ばれ、村落における祭礼行事や自警



▲松河戸は青年道徳會が発足し、のちに道風青年団となる

### 戦前の青年団



▲昭和初期の青年団クラブ  
上段より陸上部、剣道部、相撲部

团的活動など村の生活組織と密着した自然発生的な集団でした。

松河戸では、江戸時代には、青年男子によって組織され、村落という共同組織の中核的な集団である「若者組」がありました。

将来の村の担い手を育てる機関でもあるので、いろんなことが集団生活のなかで教えられました。

そこには年序組織が発達し、厳しい規則に従い、それぞれの家を代表する一人前の村人としての素地が培われました。

最小自治組織である島ごとに「若者組」は組織されており、厳しい規則のもとに運営されていた様子が門田島の記録帳からもわかります。

明治 25 年青年男子によって新たに発足した「青年道徳会」は、会の目的として学術研究を掲げており、そして、事業に励む、金銭を節約することなどを宣言して、村の行事を担当するようになりました。

大正中頃より「道風青年会」と呼ばれるようになりました。

村の伝統的な行事を受持つことが多くなるとともに、弁論、書道の研修、運動に力を入れるようになり、松河戸区の「道風青年会」と下条区の「戊申青年会」(明治 40 年戊申の年結成)の間では書を競う大会が開かれていました。

青年団の主な会場場所は観音寺の衆寮堂でしたが、その間に青年会場も建設されています。

#### 松河戸若者組規則

第壹条 当番并ニ身上ノ行ヨリ申付シ事一切扱ヘカラス  
 第貳条 他村へ出喧嘩口論スヘカラス、但シ寢居テ挨拶不致并棺物顔悪取テ言致スヘシ事  
 第参条 他村出理不人言レシ時件理有事ナレハ後エ引不可  
 第肆条 連中内ニテ出合何事ヨラス其時々ノ時間ヲ計ヒ定シ刻出可シ事  
 第伍条 例年之通六月十一日土用ニ出合定年前十時ニ集ル事  
 第陸条 例年定之休日ハ正月十二時ニアソブヘキ事  
 第柒条 年々祭礼ニ付午前六時出合當番之若者ニテ致事、但シ差合有之候節ハ次ノ若ニ而可致事、并当日ハ午後六時集コト  
 第捌条 毎年極餘節ヨラス午後七時若ル事、猶用事差便候節ハ其時間ニコトワリ人出事  
 尚若イ若入八年令十四・拾五ノ段路ニハ不抱參拾壹歳迄出勤スル事  
 右若此テ多報タル者其該ニ依テ取計可キ事  
 明治廿年丁亥八月  
 約之□(後略)

明治 20 年松河戸区の「記録帳」  
春日井市史に紹介された記事を転写

しかし青年会の活動も衰微し、書を競う大会も行われなくなっています。

そこで、里人の書への熱意は、児童生徒に期待がかけられるようになり、県下児童席上揮毫大会(昭和11年開催)へと向かうこととなります。

さて、当初の道風青年団は、小学校卒業と同時に入会して厳しい規則に従いました。

13歳から3年ぐらいは小若衆で走り使いをし(自分の島に跡継ぎのない時はできるまで)、その後、部長(2~3年)、部長頭(18歳)、後見人(20歳前後)、大若衆(24歳)と務めました。

ほかのムラから養子で来た場合、ムラのしきたりを覚えるため年齢が高くても青年会に入れられ、その期間は3年としていました。



戦時中の青年団(道風青年会) 青年会場前にて

挨拶などの礼儀に関するしつけが厳しく、目上の者への対応は親からではなく、青年団で学び、青年団が社会の一員として育成しました。

青年団の仕事は、第一は祭り行事で、タルオマント、祇園祭、提灯山、秋祭り、敬老会、お宮のおこもり、秋葉さま、苗代、堤防の草刈りなどの仕事がありました。

昭和に入り、自治会と同様に、青年団も国策への協力を余儀なくされ、やがて戦局の悪化に伴い青年団も政府の下部組織の役割を担うこととなります。

## ○ 松河戸処女会

青年団の女子部である「処女会」が大正年間に普及し、これを背景に昭和2年大日本連合女子青年団ができました。

全国各地域で、小学校卒業時から25歳までの独身女子を対象に結成され「婦徳の修養に努め他日良妻賢母たるの素質を養成する」ためであった。

料理や作法の講習会のほか軍事援護などに参加、社寺の清掃活動なども活動の一環でした。

松河戸でも独身女性の集まりの会をつくり、奉仕活動などをおこなっていました。



松河戸処女会の清掃奉仕記念撮影 大正末頃の写真

② 戦後の青年団

戦後、青年団は社会教育法(昭和 24 年)の施行により、行政当局は青年団を社会教育関連団体として位置づけ、青年団の活動も社会教育的な面へのウェイトが大きくなりました。

戦時中に若者たちが召集され、青年団の活動が一時中断したことがありましたが、終戦後に彼らが復員してくると、青年団の活動が再開され、女子青年団もでき、道風公顕彰活動・祇園祭(おまん)や盆踊り、演芸会など住民親睦活動と同時に、観光旅行など企画し青年団自身の親睦交流の場も設けるなど、以前にも増して親睦活動が活発に行われました。

しかし、戦前と違い強制加入ではなく、農業以外の職業に従事する若者が増え、高校、大学への進学も増え、また、時代とともに人々の価値観も変わり、この組織も昭和 30 年代に自然消滅しました。

村の伝統文化を後世へ伝えていく役目を担っていた青年団でしたが、消滅したこんな中で、青年団に代わる新しい祭礼行事の担い手として「子供会」に目が向けられていきます。

演芸会



▲昭和24年秋 道風青年団の演芸会

観光旅行



▲昭和30年 5月1日 男女青年団で伊良湖岬の観光旅行

盆踊り



▲昭和29年盆踊り これは昭和12年生れの同級女子



▲昭和28年 松河戸女子青年団の盆踊り



▲昭和30年の盆踊りが終わった後、女子青年団全員で写す



▲昭和30年 青年団盆踊り最終の踊り(南洋トロリコ)

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会から

## (2) 消防団

消防については、昔から村人総出で消火活動にあっていたことでしょうし、松河戸には江戸時代の火消しポンプも残っていました。

明治 27 年 (1894)、消防組規則が交付され、「消防組」が全国で設置され、府県知事に管理が任されると、公設消防組が設立されました。

松河戸においては明治 35 年頃に、団員は 20~28 歳までで「私設消防組」が組織され、明治 39 年に鳥居松村消防組第二部となりました。

なお、県訓令により大正 7 年、この庄内川流域は水防指定区域となりました。

昭和 14 年警防団令が公布され、消防組は勅令団体としての警防団に改編され、戦時下の警防・火災予防に活動しました。

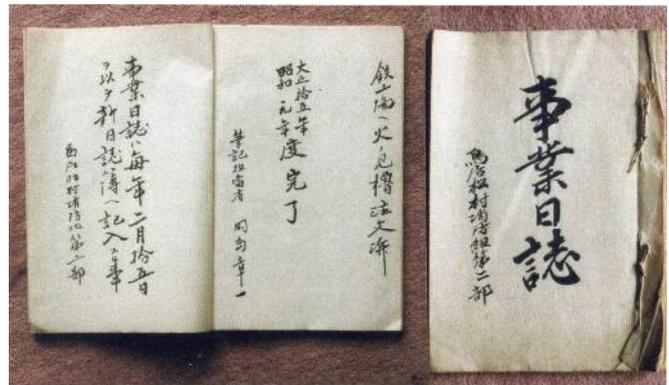
松河戸の「火の見櫓」は、大東亜戦争で物資が不足したことから、昭和 18 年頃に解体され国へ供出されました。



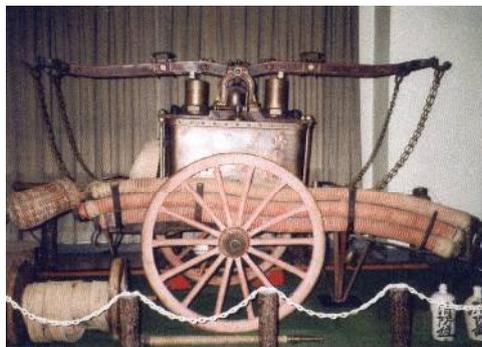
▲江戸時代の火消しポンプ



▲消防団が発足当時の記章



▲鳥居松村消防組第二部事業日誌 かつては松河戸に火の見櫓があったが大東亜戦争で物資が不足し昭和18年頃に国へ供出された



▲市役所に寄贈した松河戸鳥居松村消防組第二部の腕用ポンプ



▲昭和初期 火の見櫓前での消防団役員



▲戦時中の警防団服装



鳥居松警防団 松河戸分団 警防団員のハッピ

写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会から

戦後、占領軍から一方的に戦争協力機関だと見なされた警防団は廃止されましたが、戦後の防災体制強化のため、昭和22年(1947)勅令として消防団令が公布され、戦前の警防団は消防団として復活することとなり、松河戸の消防団は、「春日井市消防団 松河戸分団」として昭和30年頃まで続きました。

そして、松河戸の「火の見櫓」は再建され、昭和40年頃までありました。

昭和23年(1948)、消防組織法が公布され勅令団体としての消防団は地方公共団体に附属する消防機関として規定され、今日における自治体消防のもとでの消防団の仕組みが整いました。

このことによって、松河戸における自主消防団は昭和30年頃に消滅しました。

その後、市指導により、区会での自治消防団として発足しました。

町内会編成により一時中断しましたが、令和2年度から再開し、松河戸の6公園には防災器具庫も設置されています。

なお、令和元年度には市指導のもと「松河戸区防災マニュアル」を作成し、それに基づいて松河戸自主防災組織(松河戸自主防災会)が発足しました。

これは、「自助」「共助」に基づくもので、区民の全員が「



▲昭和30年頃の消防団



春日井市消防団 松河戸分団  
消防団員のハッピー 昭和30年頃まで



「松河戸区防災マニュアル」を作成し、それに基づいて松河戸自主防災組織(松河戸自主防災会)が発足しました。

### (3) 婦人の会

大正時代の中頃から成人教育、母親教育等の必要性が唱えられ、社会教育関係団体として青年団、婦人会活動が盛んになってきました。

青年団の女子部である「処女会」が大正年間に普及し、これを背景に昭和2年大日本連合女子青年団ができました。

全国各地域で、小学校卒業時から25歳までの独身女子を対象に結成され「婦徳の修養に努め他日良妻賢母たるの素質を養成する」ためでした。

料理や作法の講習会のほか軍事援護などに参加、社寺の清掃活動なども活動の一環でした。

松河戸でも独身女性の集まりの会(松河戸処女会)をつくり、奉仕活動などをおこなっていました。



松河戸処女会の清掃奉仕記念撮影 大正末頃の写真  
(1)青年団再掲)

昭和になると、文部省の後押しを受けた上流婦人の集まりである「大日本連合婦人会」と、大阪で結成され陸軍の後押しを受けた「大日本国防婦人会」の全国組織が結成されます。

しかし、戦時になると全ては戦時体制下の目的達成に利用されることとなります。

国防婦人会は、割烹着にたすきがけの服装で出征兵士の見送りに立つなど、出征・帰還兵士の世話を手厚い団体であり、松河戸では、多くの婦人が大日本国防婦人会(鳥居松村婦人会松河戸班)に入っていました。

昭和17年(1942)には、全ての婦人会が大日本婦人会に統合され、大日本婦人会鳥居松支部松河戸班となり、国民義勇隊の結成とともに大日本婦人会は解散となりました。



左は、大日本国防婦人会鳥居松村婦人会松河戸班の旗  
右は、大日本婦人会鳥居松支部松河戸班の旗

戦後は平和憲法の制定によって、民主的基盤としての社会教育活動が推進されることとなります。

昭和24年の社会教育法の実施に伴い、昭和26年には小野小学校に家庭教育学級の前身である小野社会学級が設置され、勉強会や社会見学などが行われました。



▲社会学級(小野小学校)



▲昭和30年 社会学級の遠足(社会見学)

行政の支援のもと、行政の下請け団体としての位置づけが強くなりましたが、戦後の粗悪品によるトラブルや環境問題や地域社会の問題など多様化し、消費行動を通じて侵害される権利を回復し、またその利益を守るために、消費者によって自主的に組織された全国組織の消費者団体ができます。

おもな団体には主婦連合会（主婦連）、全国地域婦人団体連絡協議会（全地婦連）、日本消費者連盟、日本生活協同組合連合会（日生協）などがありました。



主婦連合会による抗議活動  
昭和 50 年頃  
(松河戸の婦人会とは関係ありません)

しかし、松河戸ではこのような団体に個々に加入している人はいても、団体での加入は見られませんでした。

松河戸の婦人の会は、主に松河戸区の福祉活動の推進役として構成されていました。

戦前まで青年団が行っていた敬老会を婦人会が復興し、昭和 61 年に区会へ引き継ぐまで婦人会の手で実施されてきました。

また、昭和 30 年当時の道風公園造りでの奉仕活動や、道風祭、区会行事への協力など、松河戸地域における婦人会の果たしてきた役割は少なくありません。

今は、婦人会という名称はあまり使われなくなりましたが、「さつき会」など、幾つかの女性の会として活動しています。



▲戦後婦人会での社会奉仕活動



道風公誕生 1100 年祭での婦人会の皆さん  
平成 6 年 11 月 12 日 道風記念館前で



▲戦後復興され昭和26・27年頃 婦人会主催の敬老会



▲婦人会による劇



▲弘法参り

写真と図表で見る 松河戸 松河戸誌研究会から

#### (4) 子ども会

子ども会がいつから行われているかは定かではありませんが、地域の連帯意識を育て、校外における様々な遊びを通じた子どもたちの健やかな成長を目的として、松河戸でも戦後から活発な活動が行われていました。

子ども同士の連帯感が生まれるばかりでなく、子どもの成長をとおして、親同士の繋がりも深まることから、見学会・キャンプ・リレーションや、スポーツチームを作って他の地域との交流試合なども行っていました。

また、お祭りや盆踊りなどムラの祭礼行事に参加したり、公園清掃や廃品回収など自治会の事業にも協力して地域貢献をしてきました。

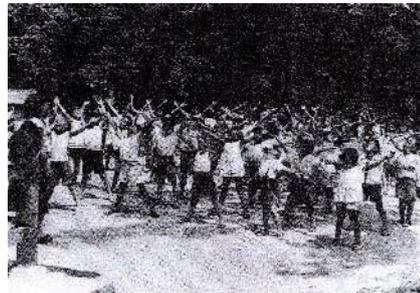
戦後、ムラの祭礼行事

を担ってきた青年団が衰退し、里人は児童生徒に大きく期待をかけるようになります。道風公顕彰活動を含むところの書道教育である「県下児童生徒席上揮毫大会」、ウンカ虫おくり行事であるところの「おんか祭」、夏祭りであるところの「タルオマント」(後に「子ども獅子」となる。)また、祭りの時の「子ども神楽」などを託しました。

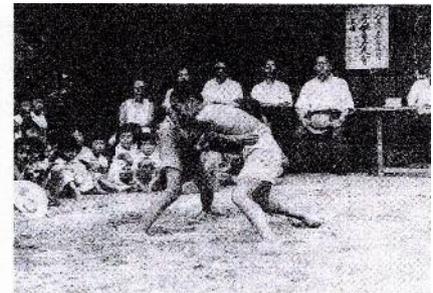
これら村の祭礼行事は大人の援助を受けながら、運営自体は子ども集団の年長者によって行われ、村の祭礼行事に参加していました。



▲松河戸子ども会の楽しいひとこま  
戦後まもなくのころ 松河戸誌研究会



夏休みのラジオ体操



相撲大会

昭和 20 年代後半

小野小学校百年の歩み

#### ラジオ体操の思い出 昭和 35 年頃

夏休みになると道風公園でラジオ体操がある。今日は夏休み最初のラジオ体操の日だ。眠い目をこすりながら起床すると、ラジオ体操の歌が聞こえてきた。すでに 6 時半をまわっていた。「もう始まっている!」と思うと行くのが嫌になった。しかし、昨日友達と、どちらが多くハンコをもらうかの競争の約束をしたことを思い出し、しかたなく出かけた。公園ではすでに第 1 ラジオ体操が終わり第 2 になるところであった。皆にみつからない様に急いで列の後ろに加わった。

体操を終えると、ラジオ体操カードにハンコがもらえる。カードをそっと差し出すとおばさんがにっこりして「明日は早起きするんだよ!」と言ってハンコを押してくれた。

競争の約束した友達は「遅れてきたので今日は半分だぞ!」と言いながら笑っていた。

翌日は、なぜか早起きができた。公園へ行くと、まだ少ししか集まっていなかった。大きな声で、ラジオ体操の歌をうたうと、なぜか今日一日いいことがあるように思えた。夏休みに入って 1 週間、夏休みの終わり 1 週間の計 2 週間行われたと思うが、それぞれの最終日にはお土産をもらったことを懐かしく感じます。

夏休みの生活リズムの規律もそうですが、友達とあまり連絡が取れない夏休み。そこへ行くと友達がいいます。地域で子ども同士、親同士のつながりが持てます。子供会が主催でおこなっていましたが、地域の大人の人も多く参加していました。どんな人が松河戸に住んでいるのか、お互いの顔が見える間柄になるとおもいます。



おんか祭 稲の害虫駆除の虫送り  
(昭和40年頃)



子どものタルオマント  
(昭和34年頃)



こども獅子(平成元年)

その後、見学会・キャンプ・リクレーションや、スポーツチームを作  
って他の地域との交流試合などが行われてきましたが、  
従来の子ども集団の活動に比べれば親の指導力が強  
く表れてくるようになって、親の負担も多くなってき  
ました。

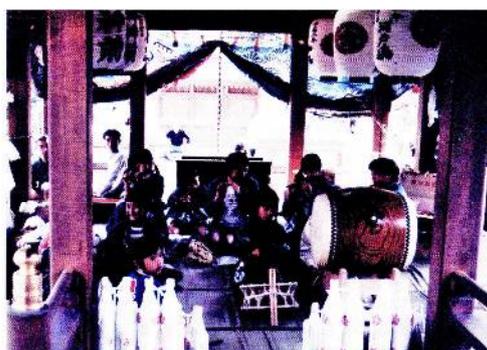
このように活発におこなわれていた子ども会も、第  
二次ベビーブームの頃を盛んに平成10年代初頃に消滅  
しました。

全国的に子どもの数の減少がみられる中で、松河戸  
は区画整理を終え転入者が増えるなかで子どもの数も  
増加しています。

世話をする親も負担増とはなりますが、もう一度、  
子ども会の設立を望みたいと思います。



平成3年10月 春日井まつりのパレードへ参加



平成5年 秋祭り



第9回春日井まつりのパレードへ参加  
子ども神楽「神楽会」昭和60年10月20日



平成始め頃 子ども御神楽 練習を終えて



第9回春日井まつりのパレードへ参加  
昭和60年10月20日

平成4年度松河戸子供会行事予定

月	松河戸子供会	小野校区
4	18日 第一回廃品回収 26日 新入生を祝う会	
5	奉仕活動	31日 ドッチボール大会
6	6日 第二回廃品回収	
7	ラジオ体操	19日 校区球技大会(小野小) 26日 (校区球技大会予備日)
8	1日 第三回廃品回収 ラジオ体操 区民盆踊り	2日 中部ブロック(柏原小) 9日 (中部ブロック予備日) 23日 中央人会(総合体育館) 30日 (中央大会予備日) 30日 親子球技大会
9	秋のリクリエーション	6日 (親子球技大会予備日)
10	3日 第四回廃品回収 24・25日春日井まつり	
11		7日又は14日 映画会
12	5日 第五回廃品回収 クリスマス会	
1	総会	17日 校区子供会バザー
2	6日 第六回廃品回収	
3	卒業生を祝う会	



昭和34年頃 子ども会で、知多の海水浴場へ行くところ。道風公園集合して

お子様のお世話をするようになりました。私たち役員一同及び協力者の皆様と共に頑張っていきますので、どうか一年間ご理解とご協力をお願い申し上げます。 ~世話人一同~



平成5年 皆でスケート場へ



平成7年8月 男子ソフトボール、女子ポートボールの開会式 地区大会  
松河戸チームは、前年ポートボールで優勝したので優勝旗を返還しているところ。  
残念ながら、この年は予選で敗退しました。

## (5) その他

### ① 松河戸老人会

老人会は、地域に住んでいる高齢者の福祉を目的とした組織で、主に相互扶助の形ではあるが、自治会が自治体の末端組織として関係しているように、老人会は自治体の福祉課などと連携して、高齢者福祉の活動を行っている任意団体です。

松河戸の老人会はいつから行われているかは定かではありませんが、少なくとも江戸時代頃の尚齒、相互扶助組織、講にまでさかのぼることができます。

以前は老人会という名称でしたが、現在は長寿 を祝う「松河戸長寿会」と呼んでいます。

松河戸地区に住いの 70 歳以上の人が自主的に組織し活動をしており、高齢者の相互扶助を基本として、旅行、リクレーション、健康教室、勉強会などを企画して実施し、また、委託を受けて公園清掃なども行っています。

「松河戸長寿会」は、解散、再開を繰り返しながら現在に至っていますが、現在の長寿会は平成 28 年度に活動が再開されて当初 70 名の会員は令和 4 年度には 20 名減ってきています。

高齢者の割合が増えて人生 100 年時代を迎えた今日、老人クラブ活動に対する社会的な期待はますます大きくなっている中で、これからの活動が期待されています。



### ② 敬老会(松河戸区にお住いの 70 歳以上の方全員が敬老会会員となります)

松河戸は老人を敬い尊敬する風習は昔からあり、多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝ってきました。

大正 13 年に松河戸で初めて敬老会を青年団が主催で行いました。戦前は、青年団が中心となり敬老会が行われていましたが、戦後は婦人会が中心となって行われました。

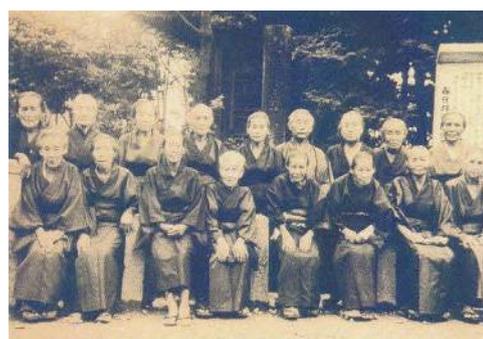
昭和 26 年中央社会福祉協議会（現全国社会福祉協議会）が 9 月 15 日を「としよりの日」と定め、9 月 15 日から 21 日までの 1 週間を運動週間としたため、松河戸の敬老会もその期間で行うようになり、昭和 41 年に敬老の日(祝日)が制定されると、敬老の日を実施するようになりました。

昭和 61 年度からは、松河戸区会が主催することとなり、この年には、市長、丹羽代議士にも出席いただき盛大に実施しました。

以降、松河戸区の最大の行事となっており、お年寄りの毎年の楽しみ場となっています。



▲大正13年 松河戸で初めて敬老会を青年団が主催で行った時の記念盃



▲戦後復興され昭和26・27年頃 婦人会主催の敬老会  
写真と図表で見る松河戸 松河戸誌研究会

区会主催の第1回敬老会(昭和61年) ふれあいの家



丹羽兵助代議士



鈴木義男市長



加藤高明市会議員



出演者の皆さん



余興の様子

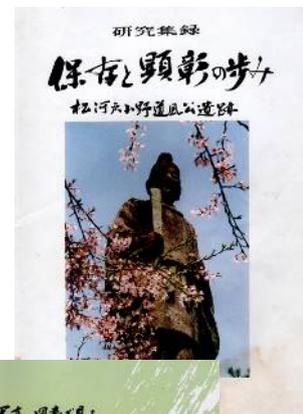
③ 松河戸誌研究会

区画整理によって変わりゆく松河戸の姿を次世代に伝えるため、現存する資料を収集保存に努めるため、平成7年8月に住民有志による「松河戸誌研究会」がたちあがりしました。

「記憶」と「伝承」を地道に真摯に引継ぎ、資料の収集、遺跡の保存、勉強を継続する研究会です。

(代表 長谷川正巳、会員 岡島 博、斉木秀弘、加藤金時、河田芳之、長谷川保)

平成28年度現在



主な活動内容		
開催年	内容	場所等
平成7年	松河戸誌研究会発足	
平成9年	松河戸区内での展示会第1回	ふれあいの家
平成10年	松河戸区内での展示会第2回	ふれあいの家
平成12年	写真が語る松河戸	勝川駅前ルネックス
平成15年	松河戸の西国三十三カ所巡礼展	勝川駅前ルネックス
平成18年	松河戸小野道風公遺跡の保存と顕彰の歩み	勝川駅前ルネックス
平成20年	研究収録 松河戸小野道風公遺跡保存と顕彰の歩み	発刊
平成27年	写真と図表で見る松河戸	発刊



松河戸小野道風公遺跡の保存と顕彰の歩み展  
準備作業（平成18年2月25日）昌福寺観音堂にて

#### ④ ゲートボール道風クラブ

ゲートボール道風クラブは、区会主導で昭和60年6月発足し、松河戸の自主愛好クラブとして対外試合などに活躍しました。

#### ⑤ 神楽会

昭和50年(1975)に、市は「郷土芸能の登録制度」を発足させたことに伴い、松河戸では昭和56年4月「松河戸神楽会」として登録しました。

「松河戸神楽会」では、子ども会に呼びかけ、「子ども神楽」を発足させ後継者の育成に努めました。

氏子総代で当番を決め、6月から10月の毎週月曜日の午後7時半から1時間程度ふれあいの家にて練習し、祇園祭、例祭事など白山神社の祭礼時に神楽を奉奏しました。

現在の主なメンバーは、昭和60年代から平成初頃の「子ども神楽」のメンバーが多く、祭礼が近づくと土日に各地から集まって神社や公民館で練習をしています。

「子ども神楽」は、平成の10年代初頃に中断していますが、継承を考えるともう一度再開が望まれます。



祇園祭に向けての練習風景 白山神社において  
令和元年6月



平成18年2月26日～3月31日  
勝川駅前ルネックスにおいて  
松河戸小野道風公遺跡の保存と  
顕彰の歩み展が開催されました。  
勝川駅前ルネックス



道風クラブ 平成17年5月17日 道風記念館前にて  
市ゲートボール協会主催 選手権大会 3位



子ども神楽のみなさん。平成の初め頃 ふれあいの家にて

区長、副区長、氏子総代、子ども会役員が、松河戸神楽会役員となり、区長が会長を務めました。

松河戸文化科学探求隊  
隊長 長谷川浩  
080-3657-7052  
松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>